

工事の生物への影響

■工事の影響を受ける河口

今回の調査において、河口域で採集できたイシガレイは1匹のみであった。Fig.1は河口域の写真であるが、採集した場所は★で示した場所である。また、潟湖内では1匹も採集することはできなかった。

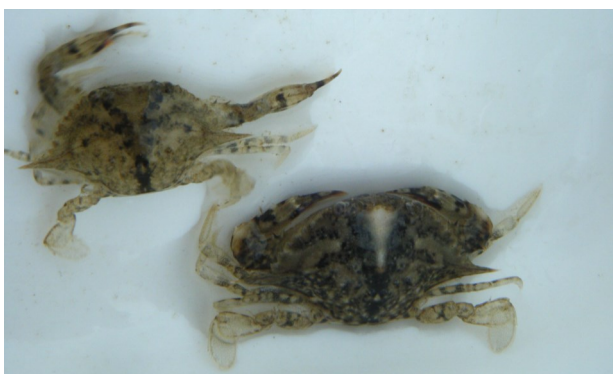
これまでの調査では、主に赤で囲んだ場所で採集したが、今回の調査では採集できなかった。また、イシガレイだけでなくハゼの仲間なども、同所では全く採集できなかった。堤防工事が生物に影響を与えているのは否定できないが、この影響が短期間なのか長期にわたるのかに目を向けていきたい。



(Fig.1 工事が進む七北田川河口域)

■ガザミの稚ガニ

Fig.1の★の場所では、イシガレイの他にガザミの稚ガニ (Fig.2) やマゴチの稚魚 (Fig.3) を採集した。ガザミは「わたりがに」の名称で食用として流通しているが、震災後宮城県での漁獲量が急増しており、2015年から昨年まで3年連続日本一の水揚げ量である。宮城県水産技術総合センターは、震災時の津波の引き波が陸上や干潟の泥を沿岸海底に運び、泥の中で冬眠して越冬するガザミに好ましい環境になったと分析している。2014年の夏には河口域でガザミの稚ガニ、成体を採集しており (レポートNo.74参照)、ガザミ増加の兆候はこの頃から確認されていた。



(Fig.2 ガザミの稚ガニ)



(Fig.3 マゴチの稚魚)

(佐藤 賢治)